

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009.6.13～14（徳島大学）
 企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：地域間の公平性の視点からみたインフラ投資		
日付：2009年6月14日（日）曜日，セッション時間：12：40～14：10		
オーガナイザー・司会者名（所属）：小池淳司（鳥取大学），佐藤啓輔（復建調査設計），門間俊幸（国総研），藤井聡（京都大学）		
討議内容	<p>セッション全体： （セッションの主旨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成12年に土木計画学ワンデーセミナーシリーズ19「土木計画における公平論を巡って」が開催され公平性の本格的な議論がなされた。当時の議論を踏まえた公平性に関する多元的な議論・コミュニケーションの必要性に関して、いくつかの視点から論文発表がなされた。 <p>本セッションでは、基本的に全体討論を主としたセッション運営を行った。</p> <p>（全体討論）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公平性を議論する中で、まだ効率性で議論することは残っているのではないかと？日本全体の生産性の観点からまだ議論する余地があるのではないかと？ <p>効率性の議論は、特殊な公平性の議論のひとつであると認識している。つまり、効率性は社会をわけない公平性議論であり、その「わける線」は、人間の心にしかないと考えている。そのため、線がある限りでは公平性の議論は欠かせないように思う。</p> ・何が今の公平性の論点なのか？が、よくわからない。それだけ難しい課題なのかもしれない。この主の議論をする際には、「経済評価」と「それ以外の評価」は分けて検討すべきである。 ・経済評価の議論をする際は、一国が貨幣システムをアクセプトしている限り効率性の議論を崩すのはなかなか難しい。 ・公平論のアプローチには、効用主義と資源主義がある。B/Cは効用主義の中に包含される。資源主義は「ニーズとは何か？」という論理であり、ニーズの定義によって哲学的発展が異なる。 ・新古典派主義は「公平性は、個人の問題で地域の問題ではない」と主張しているが、相対的な評価をもとに議論を行う限り突破口はなく、本質的価値「テリトリーで住むことはどういうことか？」の議論に持ち込む必要がある。 ・新古典派の最大の問題は人が自由に動けるとしているところ。人間には本源的に異質性がある。来年も引き続き議論をしていかないといけなないと考えている。 	
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：227・藤井聡（京都大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでのニーズの捉え方は、困窮度のある人が欲しがっているニーズと、裕福な人がさらに欲しがっているニーズのどちらを指しているのか？また、アンケートではどちらの聞き方をしているのか？ <p>前者を計測している。アンケートにおいても前者を意識した聞き方をしている。</p> 	

<p>(発表番号) 発表者名 (所属): 228・小池淳司(鳥取大学)</p> <p>・人のプリファレンスを同一にして SCGE などの経済モデルを行うことは良いのか？</p> <p>SCGE はある種の仮定の中で分析を行っている．そのため，現実に行っている事象とモデルによる推計には相違がある．そのため前提条件を明確化した説明が必要となる．</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属): 229・門間俊幸(国総研)</p> <p>該当する質問なし</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属): 230・佐藤啓輔(復建調査設計)</p> <p>該当する質問なし</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属): 231・上田孝行(東京大学)</p> <p>該当する質問なし</p>

発表件数に応じて適宜追加してください．